

わたし がいこく

『私の外国での

ひとりぐ

一人暮らし』



バトバヤル ウラン ウルジさん



モンゴル



みなさん、こんにちは。わたしはモンゴルから来ました。ウルナーと申します。今沼津高専の3年生です。今日、私は私の外国での一人暮らしについて話をしたいと思います。

まず、私がどうして日本に留学することになったのか、その理由について話したいと思います。

私は、両親と、二人のお兄さんとの五人家族です。私のすぐ上のお兄さんは、とても頭が良くて、子どものときから数学のオリンピックに参加するために、色々な国に行っていました。そして、そのお兄さんが日本へ数学のオリンピックのために行って、帰ってきたとき、日本はとてもいい国だったという話をしてくれました。その話を聞いて、私も日本に留学したいと思うようになりました。

また、お兄さんのように、いつも親を喜ばせたい気持ちと、親に誇りに思ってもらいたい気持ちで、勉強を頑張りました。そして、次の年に、日本の政府の奨学金をもらって日本に留学することができたのです。

私は2015年の4月に日本にきました。もうすぐ1年半になります。

今からこれまでの留学生活を通して、自分がわかったこと、できるようになったこと、学んだことについて話をします。

まず、最初に、留学してわかったことは、自分が得意なことです。私は留学してから、家族や友達と一緒に過ごす時間が少なくなって、自分のために使える時間が多くなったので、ギターやダンスや歌など、以前から興味をもっていたことを全部やってみました。そして、自分は歌が一番得意だ、ということが分かりました。それで、自分自身を高めることができる歌を続けることにしました。今、私はアカペラ同好会で歌っています。

次に、留学してできるようになったことは、洗濯と料理と掃除です。日本で一人暮らしになってから、洗濯、料理、掃除などを全部一人でやれるようになりました。日本に来る前には、い

つもお母さんが全部やってくれていたから、私は何も家のことができなかつたんです。日本人の子どもと同じですね。

そして、留学してわかったことは、お金の大切さです。一人で暮らして、お金の大切さがわかり、お金を上手に使えるようになりました。

私は日本にきてから、経済的に独立して、両親から全然お金をもらわないで生活しています。このことで、親を少しでも助けることが出来ていると思います。

いまは、計画的に奨学金を使って、少し貯金もしています。

さらに、私は、日本とモンゴルの文化や人間性を比べて、良い点を自分に取り入れることで、考え方も広くなりました。

留学したことで、私は、自分自身を成長させることができたと思います。

私は、留学して、外国で一人暮らしをしたからこそ、これらの大切なことを学ぶことができました。

私は、日本に来てから、多くの日本人の学生から「留学するのは大変だから、もう、ずっと日本でいい」という話をよく聞きます。もちろん、留学することは、いつも楽しくて簡単なことばかりではなくて、時々、ホームシックをはじめとする色々な苦勞があるものです。しかし、簡単に得られるものより、挑戦して、苦勞をして得られたものは、本当に大切に意義があるものだと思います。

私は、日本人の学生にも、留学することを強く勧めたいと思います。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。